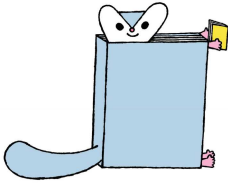


「霜月」



2023. 11. 15

美幌町図書館長
竹花 史康

旧暦の11月は、現在の11月下旬から1月上旬にあたることから、霜が降り始める月、「霜月」と名付けられたようですが、私たちの住む北海道にとってはまさにピッタリとした名前です。

秋もかなり深まってきましたので、秋の句をいくつか紹介したいと思います。

まずは、教科書にも載っている 正岡子規の名句

『 柿くえば 鐘が鳴るなり 法隆寺 』

柿を食べていると、法隆寺の鐘が鳴るという奇跡ともいえる出来事は、私たち日本人の心に、なんともいえない不思議な印象を与えます。

次は、秋の原風景ともいえる与謝蕪村の句

『 山は暮れて 野は黄昏の 芒(ススキ)かな 』

すっかり暮れてしまった遠くの山、でも目の前の野にはまだ黄昏の光が残る芒の群生が広がっている。まさに日本の秋そのものです。

最後は、誰もが知っているのに、以外と松尾芭蕉の作と知らない人が多い一句

『 秋深き 隣は何を する人ぞ 』

秋が一層深まってきて一人寂しさも感じられる中、かすかにきこえてくる物音に隣の人は何をする人であろうかと、人懐かしい感じがします。

ゆっくり暮れていく秋のように、静かに暮れようとしている自分の人生を詠んだ、芭蕉晩年の句です。

